

『チャペル』

出題者：甲村健一

まず本課題の大前提について説明すると、本来「チャペル」とはキリスト教の礼拝堂を指す言葉であるが、今回の設計課題においては『結婚式の挙式会場』であると理解してもらいたい。

現代の日本において「チャペル」とは、結婚するカップルが自分達の晴れ姿をお披露目することが目的の場所であり、そこで行われる宗教儀礼はあくまでも形式的なものに過ぎない。それはもはや宗教建築とはいえず、キリスト教がもつ歴史や宗教文化を踏襲はしているものの、現代においてはそれらを踏襲する必要性を徐々に失っている。それらに代わって既成のチャペル建築を成立させている要因は、カップルの消費欲を煽るのに必要な表面的な意匠性のみである。それさえ満たされていれば最悪、十字架やバージンロードすら無くてもまったく支障はない。そのように考えると、少々乱暴な言い方をすれば、宗教建築というよりもむしろディズニーランドのようなテーマパークの類と理解するほうがより正確なのかもしれない。

また、一時間程度の静粛なセレモニーを行うこの建物には、本来建築物が満たさなければならない「機能」というものが特別に見当たらない。敷地にしても制約は少なく、都会・山奥などを問わずどこにでも存在している。このように「チャペル」は、倉庫や体育館のようなガランドウの建物以上に満たすべき条件が希薄な建物でもある。よって建築計画学的なゾーニングや動線計画などの有用性は低く、建築的に求められていることは、参加者を収容できるだけのキャパシティをもった箱であること。それだけしかない。

以上のように今回の課題においては、歴史・文化・用途・機能・環境などの一般的に建築を成立させている諸条件は、この建築物を構想する上での手がかりにはなりえても、この建築物を成立させるための説得力を与えてくれるものには成り難い。この建築物の構想に説得力を与えてくれるものは、君達の創造力と表現力だけである。

「課題内容」

- ・規模は特に問わない。
- ・用途は、チャペル＝『結婚式の挙式会場』である。
- ・用途はチャペル単独であるが、他の用途と複合させるなどの設定は各自で自由に設定してよいものとする。
- ・敷地は愛知県内であればどこでも構わない（都市、郊外、自然の中など）。

「提出物」

- ① プレゼンシート：A 1 用紙 2～3 枚程度を必須とする。

模型・模型写真・CG・パース・ダイアグラムなどのイメージを伝えるものは必須。

図面は下記②での提出を基本とし、プレゼンシートに図面を書き込むかどうかは

プレゼン方法に合わせて各自で自由に設定すること。

- ② 図面一式：A 3 用紙 枚数は自由

配置図、平面図・断面図・立面図、（断面図と立面図は各 1 面以上）

（図面の縮尺・範囲等は、各自の計画規模や内容に合わせて調整すること）

設計主旨・コンセプト文 1000 字以上（2000 字以内）

「評価項目」

- ・上記提出物の他、プレゼ力（説明力）も評価の対象とする。
- ・発表時間は各自 4 分間（時間厳守）とし、いかに自分の設計主旨を伝えられるかを評価対象とする。